

平成 28 年度

福祉行政にかかわる指定管理者評価委員会 議事録

■日時：平成 28 年 7 月 29 日（金）午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分

■場所：大和市第 2 分庁舎 2 階会議室

■参加

出席委員：5 名

小野委員、桐原委員、北林委員、平田委員、三枝委員

傍聴者：1 名

【次第】

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 職務代理の選任について
4. 本日のスケジュールについて
5. 事業報告・評価（案）の説明・質疑応答・意見交換
6. その他
7. 閉 会

以下、要旨記録

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
小野委員長よりあいさつ。
3. 職務代理の選任について
・小野委員長より桐原委員を指名。
4. 本日のスケジュールについて
事務局より本日のスケジュールを説明。
5. 事業報告・評価（案）の説明・質疑応答・意見交換

(1) 障害福祉センター松風園

○「資料1-1:障害福祉センター松風園事業評価(案)」 「資料1-2:障害福祉センター松風園事業報告書」に基づき、指定管理者による事業報告及び担当課による評価案の説明の後、委員からの質疑応答、意見交換を行った。

<質疑応答> ※以下、指定管理者=指定と表記

委員：評価案について、事業報告を要約したような印象を受けた。課題となるようなところは触れられないのか。従来このような形なのか。

委員：従来このような形である。

委員：はじめの頃に同じような話があった。

委員：平成26年度に課題として挙がって、平成27年度に改善されたことはあるか。

指定：第1松風園について、平成26年度までは待機児童が少なく10名、多い時は20名程度いらっしやった。待機している児童も、年齢的には通園することが望ましいと思っていたが、定員等の課題があった。その課題に対して、平成27年度には週5日通園するパターンだけでなく、週2日通園するグループを2つ作り、14名がこの対象になったため、本来であれば7名しか利用できないところ14名が利用できるようになった。週2日の通園を通じて施設との接点を持ち、家族のサポートなどを行っている。引き続き今年度もおなじように取り組んでいる。また、親のメンタルヘルスについても重要な課題として見えてきたため、そこに対するフォロー体制の充実ということで、就学した場合は小学校への訪問等によってアドバイスをするなどの支援をしたいと考えている。

第2松風園についても、定員を超えて受け入れていたが、スペース的な課題もでてきたため、松葉の家に移行する利用者を増やすなどの対策をとった。また、グループを4グループにしたことで目が行き届く範囲での支援体制にした。今後の課題としては、保護者の高齢化によって自主登園が難しくなってきた、という声を耳にすることが増えてきたため、体調不良の時の見守りや通院、送迎、自宅に代わる在宅拠点等について考えていきたい。

委員：利用者が快適に利用できるようないろいろと工夫されていることがよく分かった。

委員：職員にも大きな負担がかかっていると思うが、サポートはどのように行っているか。

指定：ストレスチェックについては今年度より制度化されたため本格的に取り組んでいる。また、外部から特定社会保険労務士の派遣を委託して、面談等を実施し、ストレスに対して速やかに対処できるようにしている。

委員：苦情受付について、どのような体制で受け付けているのか。

指定：玄関前に設置している苦情箱と、家族会を通じて受け付けている苦情箱がある。苦情内容と対応については必ず家族会に報告するようにしている。

委員：日頃お世話になっていることもあり、なかなか苦情を言えない人もいると思うが

第三者委員などの仕組みはないか。

指 定：第2松風園ではオンブズパーソン制度がある。また、郵送での苦情も受け付けている。直接言いづらいことがあれば、市の障がい福祉課に伝えてください、という周知もしている。

委 員：臨床発達心理士や社会福祉士について、評価案には出てきているが、事業報告内の職員の配置状況の表には出てきていないのはなぜか。

指 定：職員の配置状況については、指定管理上の要件に沿って掲載している。

委 員：事業報告にも内訳が分かるように掲載してほしい。

委 員：防犯体制はどのようになっているか。

指 定：利用者が出て行ってしまうこともあるので、施錠をしてある。その他防犯カメラを設置しており、入口付近の非常ドアも出入りが集中する時間帯以外は閉鎖してある。

委 員：評価案に、「指定管理料と法人内の他事業により収支のバランスがとれている」とあるが、事業報告には他事業の収支が掲載されていないため読み取れない。

指 定：事業報告書は指定管理事業の範囲のみにさせていただいた。

<評価案についての意見交換>

委 員：事実の羅列だけになってしまっている。「～していることが評価できる」など、事実を踏まえたコメントを記載してほしい。

委 員：職員が社会福祉士の資格を取得していることなど、事業報告書に記載されていないことは評価できないのではないか。

担当課：社会福祉士等は指定管理上の資格取得要件ではないが、要件ではない中で配置していただいていることは評価できるので、事業報告にも追加したうえで評価にも記載したい。また、法人内の他事業の収支については指定管理事業の評価の範囲を超えているので削除させていただく。

委 員：保育所等訪問事業については、学校に訪問するなど就学後のアフターフォローを行っていることが評価できるため、評価に明記したほうが良い。

委 員：防犯カメラの設置など防犯対策については、評価の視点3に加えたほうが良い。

(2) 障害者自立支援センター

○「資料2-1:障害者自立支援センター事業評価(案)」「資料2-2:障害者自立支援センター事業報告書」に基づき、指定管理者による事業報告及び担当課による評価案の説明の後、委員からの質疑応答、意見交換を行った。

<質疑応答>

委 員：昨年度の事業報告で独自事業に入っていたカフェふらっと事業が、今年度は就労移行支援事業の受託事業の中に入っているがこれはなぜか。

- 指 定：平成27年度から就労移行支援事業の事業に組み込んだ。これにより、カフェふらっとの収入がその他の収入となっていたが、就労移行支援事業の受託額に含まれ、就労移行支援事業を利用している方がカフェふらっとで働けるようになった。
- 委 員：外部の企業等が以前よりも減っているのはなぜか。
- 指 定：適性に応じた、きめ細やかなプログラムを提供したいということで、意識的に減らし、個別や小グループでのプログラムを増やしている。
- 委 員：計画相談の件数が増えているということだが、一般相談との違いは何か。計画相談の件数が増えたことによる弊害などはあるか。
- 指 定：福祉サービスを利用するためには、サービスを利用するための計画を作成しなくてはならないことになったので、ご本人の希望を聞いて計画を作成したり、希望通りのサービスを受けられたかどうかの確認ということでモニタリングなどを計画相談では行っている。平成26年度から、サービスの支給決定を受けるためには計画が必須となったため利用者が増加しており、自施設の利用者以外の方の計画作成も行っている。これにより、計画を伴わない日常生活相談に対する相談員数等は圧迫してきている現状にある。
- 委 員：就労移行支援事業は2年間と期限が決まっているが、それを過ぎた場合のフォローは何かしているか。
- 指 定：なんとか2年間で就労につなげられるよう支援をしているが、準備の期間が足りなかった利用者については、就労継続支援B型事業や、その他働く作業を通して就労を目的とした活動が続けることができている。また、就労移行支援事業と相談事業の相談員が連携して、次の場所に移行するための支援ができるようにしており、移行した後も就労相談事業として支援をしている。
- 委 員：防犯に関してはどのように取り組んでいるか。
- 指 定：地域に開かれた施設として、いろいろな方に自由に来ていただきたいと考えているため難しいところである。事件のことでショックを受けた利用者もいるので、利用者とのミーティングを行うなどの対応はした。安全管理についてはこれからさらに検討していきたい。
- 委 員：自立支援センターでのチャレンジ雇用を経て、一般企業への就職につなげているということだが、成果はどうか。
- 指 定：皆さんチャレンジ雇用をしてから1年未満で転職先をみつけ、転職している。できるだけ多くの人に、自立支援センターでの就労を通過点として、一般企業に就職していただきたいと考えている。

<評価案についての意見交換>

- 委 員：就労移行支援事業と相談支援事業が連携していることで、就労や就労継続につながっている人が多いことをもっと評価したほうが良い。

委員：苦情案件の報告及び対応について、報告書が分かりやすく丁寧に作成されているので、この点についても評価したほうがよい。

委員：地域連携事業について、自立支援協議会が高齢者分野との連携ができていることを評価するべきである。

委員：報告の中で課題がいくつかでてきたが、それに対する対応を検討していることも評価できる。

(3) まごころ地域福祉センター

○「資料 3-1:まごころ地域福祉センター事業評価(案)」「資料 3-2:まごころ地域福祉センター事業報告書」に基づき、指定管理者による事業報告及び担当課による評価案の説明の後、委員からの質疑応答、意見交換を行った。

<質疑応答>

委員：デイサービス事業の収支が3年連続でマイナスとなっており、利用時間の延長等をおこなったとのことであるが、今年度については現在どのような状況か。

指定：週に5日程度利用されていた方がお亡くなりになったことで年度はじめは落ち込んでいたが、新規利用者が11名増えたので、順調に増えている。

委員：最近さまざまなデイサービスがあるが、まごころデイサービスセンターの特徴は何かあるか。

指定：先日市内のケアマネジャーを対象にアンケートを実施したところ、まごころデイサービスセンターの特徴が分かりづらいというご意見があったため、内部でも特徴を出していこうと検討している。もともとデイサービスセンターが少ない時にスタンダードな形で始めたため、特徴があまりないかもしれないが、一方で、市が運営していることに対する安心感については定評があるので、そこをもっとアピールしたい。また、広々とした浴室等は特徴というほどのものではないかもしれないが、どのような施設なのか知っていただくということで周知していきたいと考えている。

委員：事業収益の減少の原因についてはどのように考えているか。

指定：周囲にデイサービスセンターがたくさんできており、以前は特に宣伝等をしなくても利用申込みが来ていたが、最近は近くのケアマネジャーであってもまごころデイサービスセンターの存在を知らない方もいるようなので、PR不足を感じている。

委員：サービス内容については何か考えはあるか。

指定：サービス内容については、ニーズに合わせて随時改善をしている。しかし、土日や祝祭日に営業していないので選ばないというケアマネジャーも多いので、その時点で選ばれないというケースも発生している。

委員：そのことについては何か対応を考えているか。

指定：土日や祝祭日に営業することについては、条例の改正等が必要になるので今のと

ころ考えていない。

委員：子育て支援センターで実施している事業は、地域子育て支援拠点事業の一つということでよいか。

担当課：そのとおりである。

委員：「子育てサロン」を実施しているとのことだが、現在は「子育てひろば」という名称の方がなじみがあるように感じる。名称について検討していただきたい。

委員：介護サービス評価プログラムで、点数が前年度よりも下がっている項目について、解決策はなにか考えているか。

指 定：評価プログラムでの評価ですぐに取り組みそうなことについては取り組んでいるが、震災時の対応の事前準備については、市の施設として、まごころ地域福祉センターの立ち位置を確認しながら準備を進めていきたい。

委員：病院との協働実践による手ごたえなどは何かあるか。利用者にとっての効果はあったか。

指 定：今まで自治会等の集まりに地域包括支援センターの職員が行って、健康講座の講師などをしていたが、病院との連携を進めたことで、より具体的な介護予防ができ、病院側が地域を知る機会にもなった。また、病院からの、市内のリハビリテーションに関する専門職の連絡会を立ち上げたいという要望に社会福祉協議会として協力したことで連絡会ができ、今年度に入って第1回目の会議が開かれた。

<評価案についての意見交換>

委員：報告書のマイナス部分があまり評価に出てきていない。事業者が一生懸命取り組んでいることや改善が難しいことは理解できるが、評価に表さないと条例改正などの動きにつながっていかないのではないか。

また、医療との連携については良い取組みであり市内全域に広がってほしいと考えるため、評価にはっきりと表してほしい。

委員：同じ建物の中で子育て分野と高齢者分野の事業があるので、その二つが有機的に働いていることがあれば評価したい。

6. その他

7. 閉 会

以上